

# CEM news

Church Education Ministries

## すべてを生徒のために……その2

CEM高校科テキスト「ROOTS」は、従来の北米の高校生テキストを翻訳して出版することから、以下のような独自のカリキュラムに基づいて出版することから誕生しました。

3年間36単元のうち、教理16単元、実践12単元、聖書の読み方8単元で構成されていますがそれぞれ内容について説明します。

### 聖書の教理を学ぶ

聖書教理の学びは、教会教育の基礎を形成するものとして重要です。ROOTSでは36単元のうち16単元を教理の学びに設定されています。

私たちは、教理の学びについても生徒のためになるテキストであることを考えました。

従来のように模範解答を求める解説的な授業だけではなく、その教理が生徒自身との関わりについて理解を深めます。この学びのゴールは教理の意味を知ることによって、それが教会生活の中でふさわしい態度や行動の変化となってあらわれてくることです。さらに、信仰の実践部門では日本という社会・文化の中で自分の信仰生活を具体的にどのように実践していくか。またその際に、体験するであろう様々な疑問や困難な課題について取り上げるようにしています。

### 信仰の実践を学ぶ

教理の学びにおいて取得された新しい理解と知識は実践に結びつかなければ意味がありません。ところが北米社会と違い、日本の高校生が生活している環境は、異教的・無宗教的・世俗的社会です。このような環境の中で信仰を実践しようとして経験することは、意見の対立、周囲からの圧力による恐怖感、孤立と行き詰まりです。彼らを支え導

く人がいなければ、まさに狼の集団の中に放たれた迷える子羊のような状況です。

ただ実践しなさいと教えるだけの聖書教育ならばそれは未熟で不満足なものです。生徒が実際に実践する場合の妨げになっているものを指摘して取り除き、心に感じている不安感や恐怖を和らげ、励ましてあげることが必要です。

しかし、最高の励ましと慰めは聖書のみことによる神の知恵と神から来る励ましです。信仰の実践が単なるテクニックの学びに終始するのではなく、生徒の体験がみことばの学びに結びつき、それによって身につく霊的成長につながることで

そのためには、生徒にとって聖書のみことばがいかに魅力的であり、刺激的であり、感動的であるかを体験させることが必要です。

### 聖書の読み方を学ぶ

従来の聖書の学びでは、聖書本文を読んで、そこから霊的原則や生活に適用できる原理を洞察するように導いて、それを模範的な信仰生活として適用することでした。このような授業では聖書は模範的な信仰生活の教科書のような

生徒にとって、そのような授業によって聖書のみことばを魅力的で、刺激的で、感動的なものと感じているだろうか反省すべき点はありませんか。

新しいテキストで「聖書の読み方」と呼んでいる単元は、聖書を読むコツを生徒に伝える学びです。旧新約聖書各書の読み方のコツが分かれば、聖書自身が生徒に語りかけてくるという魅力を知ることでしょう。私たちは、もっと聖書を知りたいと思うように興味と関心を引き上げ、新しい発見の喜びと感動を生徒たちに伝えたいのです。

千里キリスト教会 牧師 徳本 篤



# ROOTS (高校科) 前期・後期 使っています!

実際に用いておられる教会学校の先生方にアンケートに答えていただきました。

## 1. 使用クラス

- \* 中高生 \* 高校生
- \* 小グループ (教会学校の教師) (成人クラス)

## 2. ここがよかった!

- \* レベル別に分かれていて使い易く感じた。
- \* イエス様の系図など知らないことが知れてよかった。(生徒の声)
- \* テーマ毎にカリキュラムが組まれており、全体を学べば、聖書の基本知識を体系的に習得することが出来る。
- \* 教理・実践・読み方と部門が明記され、目的にあった学びが出来る。

## 3. 使い辛かったところ。

### またその箇所をどう工夫して用いたか。

- \* レベルごとに3段階になっており、一緒の授業の中で、それぞれの信仰のレベルに合わせて授業することは物理的にも難しい。
- \* 質問を適応するのが難しかった。質問を変えて話しやすくした。
- \* 教師用テキストには授業ポイントのみの解説になっており、教師の聖書知識がそれなりに備わっていないと個々の生徒に合わせた解説等が難しいと思う。
- \* 聖書箇所の背景や解説がない場合は自分で調べた。

## 4. 初級・中級・上級の3段階の対応に関して

- \* 3段階に分かれているので、その人にあった教え方のモデルを模索できる。
- \* その時になるまで、誰が来るのかわからないので、どこに重点をおいて準備すべきか迷った。
- \* 3段階に分けられているのはよかったと思う。ただ、どの段階を使えばいいのか悩んだ。
- \* 3段階とも、それぞれの切り口からの設問になっており先生が授業の組み立てを工夫する必要がある。
- \* 生徒の顔ぶれをみて、どこか一つのレベルに絞って授業をする方が、進めやすい様にも感じる。(現在模索中)

## 5. CD 形態に関して

- \* 必要分だけ印刷して用意出来るので、いいと思う。
- \* 使いやすいし、検索しやすいので便利。
- \* テキストを買うよりいいと思う。
- \* 時代の流れから、一つの形態としては、自然なものと思う。

## 6. 内容に関して

- \* 聖書箇所、とてもいい!!
- \* 難しかった。使用期間が短いので正直まだよくわからない。皆で話し合える感じのものだといいなと思うが、難しく考え込んでしまった。
- \* まだ取り組んだばかりだが、教える立場として、色々なことを想定して事前準備をしておくことが重要であり、その点で勉強になる。

## 7. その他『ROOTS』をつかってみての感想

- \* もっと使いこなせたらいいなあと思う。
- \* 生徒には別の質問を用意したりして生徒用テキストを使わなかった。
- \* 手作りの教材で、聖書のことばを時代の感覚に合わせて説明することを前提としているように思う。
  - \* 教師の信仰と聖書知識の深さと、事前準備をどれだけするかによって、授業の中身は大きく違ってしまおうと思う。
- \* 生徒の側から、色々な質問や、日頃の自分の信仰生活で感じていることや悩みを、積極的に投げかけて貰って授業を進める様意識している様に感じるが、生徒(特に中高生)にそれをもとめることは、現実に難しいのではないかと感じてしまう。
- \* 次のCDを待ちわびている。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

現場で奉仕されている教師の方々からこんなにも熱心な回答をいただいて感謝しています。

ROOTS 編集委員会では最初に初級・中級・上級をそれぞれ分冊にして出そうと考えました。同じクラスにレベルの違う生徒を集めて教えることは物理的に無理だと考えたからです。

しかし、同じクラスを三つに分けると教室や教師の数のことが問題になりました。日本の教会の現状を考えるとレベルの違う生徒を同じ教室で教える以外に道がないと判断しました。

そこで、ROOTS を上手く使いこなす秘訣を伝授しましょう。

標準的な授業は中級です。どんな生徒が来るかわからない時は、中級を準備してください。そこに聖書のことばがほとんどわからない新しい出席者が来られたら初級に切り替えて、他の生徒も一緒にその人を応援しましょう。その人がクラスに慣れてきたら中級に戻るようになります。

上級は新しい教師のスキルアップと熟練した成人クラスのために使用してください。しかし、信仰熱心で熟練した高校生がいて、もっと聖書を学んで他の人に伝道したいという人がいたなら、その生徒のために別のクラスで上級を使います。

上級はそのような生徒を想定して最初からより難解な問題を取り上げています。ですから初級から上級まで全てを一度に生徒に教えることは控えていただきたいと思います。

ROOTS 編集委員代表 徳本 篤

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

集う生徒(メンバー)の信仰の状態は様々です。その中でお一人お一人の先生方が生徒に真剣に向き合っておられる姿をアンケートの中で感じ、感謝と賛美を致しました。『ROOTS』は先生方にとって、準備に時間を要する教材かもしれませんが、同時に自由に料理できる確かな教材のようにも思います。以前、教会学校教師をさせていただいていたとき、その準備のための時間は、子どもたち以上に私自身がお恵みを頂いた時間であったように思います。主が皆様方の上に働かれ、教会がますます祝されますように・・・祈りつつ  
事務室 脇坂洋子